

はじめに

さばえ近ちかもんくん松 倶楽部と鯖江市教育委員会では、『ちかまつうるる読本 ザ・近松』全三冊を発行いたします。

「ちかまつうるる」の「うるる」は、各巻の副題となっています。第一巻「近松を味わう」、第二巻「近松を知る」、第三巻「近松を旅する」から、末尾の文字を取って名付けました。

近松の浄瑠璃を見る、その生涯・人となりを学ぶ、ゆかりの土地をめぐる……そういった折に、ポケットに入れたり、カバンにしるばせたりして、気軽に利用できる手のひらサイズのかわいい冊子です。末永く愛用くださいますようお願いいたします。

さて、近年、文章を声に出して読む「音読・朗読」がひそかなブームをよんでいます。音読用に、古典作品や詩歌、物売りの口上など、歴史のなかで吟味され生き抜いてきた名文・名文句を選び出し、一冊にまとめた本がベストセラーにもなりました。その中に、近松門左衛門の代表作である『曾根崎心中』のお初はつ・徳兵衛とくべえの道行部分みちゆきが選ばれています。

この世のなごり。夜もなごり。

死に行く身をたとふれば　あだしが原の道の霜。

一足づつに消えて行く。　夢の夢、そあはれなれ……

これは、古来、名文として知られてきた文章ですが、あらためて声に出して読んでみることで、多くの人が近松作品の魅力をしみじみ味わうきっかけになったと思います。

近松の作品、名文句は、ほかにもたくさんあります。この巻では、近松作品の中から代表的なものを選び出し、やさしい言葉で解説をつけました。劇場で鑑賞したり、その作品について知りたいと思ったときに、まず最初に開くガイドブックとして役立てば幸いです。

最後になりましたが、冊子の編集にご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。同時に、『ちかまつうるる読本　ザ・近松』を通して、近松愛好の輪が一層広まることを祈念し、巻頭のごあいさつとします。